

平成25年度（2013／2014年）の研究活動の概況

生体防御医学研究所・所長

佐々木裕之

（ささきひろゆき）

生体防御医学研究所は九州大学の誇る4つの研究所のひとつとして、生体の恒常性を維持するために重要な「生体防御」を研究テーマに据え、生命現象の本質に迫る基礎研究を展開すると共に、生体防御機構の破綻による疾患の発生機序の解明と診断、治療法の確立を目指した研究を展開しています。本研究所は一昨年創立30周年を迎え（温泉治療学研究所及び医学部附属癌研究施設が統合され昭和57年4月設立）、九州大学病院別府病院（温泉治療学研究所）創立80周年とあわせ、平成25年2月16日に盛大に記念式典、記念講演、記念祝賀会を開催しました（ホテル日航福岡）。その様子は昨年度の年報でご報告したところです。本研究所はこれまでも国立大学附置研究所として国内屈指の研究実績を誇り、国際的にも高い評価を受けて参りましたが、平成22年度より文部科学省より共同利用・共同研究拠点「多階層生体防御システム研究拠点」に採択され、真に世界的な研究教育拠点を目指しています。また、平成25年度には九州大学「大学改革活性化制度」により3教員ポストを新規獲得して、トランスオミクス医学研究センターを設立しました。平成25年度の主な活動状況は以下の通りです。

1. 従来の遺伝情報実験センターを改編し、平成25年4月1日付でトランスオミクス医学研究センターを設置した。これは、九州大学の大学改革活性化制度に応募して実現したもので、大学本部から1分野の増設（教授1、准教授1、助教1）とともにセンター設立が認められたものである。すなわち、本センターはゲノミクス分野（旧遺伝情報実験センター）、エピゲノミクス分野（新設：教員はエピゲノム制御学分野が兼任）、プロテオミクス分野（生体多階層システム研究センターより移行）、統合オミクス分野（新設）の4つの研究分野からなり、多階層の生体分子情報（オミクス情報）を横断的に活用することで、様々な生命現象や疾患の「鍵分子」を見つけようとするものである。平成25年度は統合オミクス分野（新設）の教員選考を行ない、平成26年4月より久保田浩行教授（東大特任准教授より）が着任することが決定した。
2. 平成25年4月1日付で鈴木淳史准教授（器官発生再生分野）が教授に昇進したほか、9月1日付で田中芳彦准教授（免疫遺伝学分野）が福岡歯科大学教授に栄転した。また、佐渡敬准教授（エピゲノム制御学分野）が退職し、平成26年4月1日付で近畿大学農学部教授へと栄転した。
3. 福井宣規主幹教授（免疫遺伝学分野）が平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞した（平成25年4月16日）。
4. 第23回ホットスプリングハーバー国際シンポジウム（平成25年度九州大学生体防御医学研究所国際シンポジウム）、および第3回卓越した大学拠点形成支援プログラム国際シンポジウム「Recent Advances in Stem Cell Biology 2013」を開催し、活発な討議を行なった（平成25年11月4～6日、総合研究棟）。参加者は250名を越えた。また、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト「ゲノム・

エピゲノム研究拠点形成」および生体防御医学研究所（共同利用・共同研究）研究集会の共催による国際シンポジウム「Fukuoka International Symposium on Genomics & Epigenomics 2013: Expanding Frontiers of Genomic Science」（平成25年9月10日、総合研究棟）（111名参加）、日本遺伝学会ならびに九州大学生体防御医学研究所・ヌクレオチドプール研究センターと共催による国際シンポジウム「Germline Mutagenesis and Biodiversification」（平成26年3月21、22日、総合研究棟）を開催し、それぞれ多数の参加者を得た。

5. 9つの生命科学系の国立大学研究所が交代で毎年開催している研究所ネットワーク国際シンポジウムの第8回シンポジウム（京大再生医科学研究所主催）「Frontier in Medical Science and Engineering for Regenerative Medicine」に教員や学生が参加し、発表や討議を行なった（平成25年6月27、28日、京都大学医学部創立百周年記念施設・芝蘭会館）。
6. 先端的な研究を積極的に推進し、インパクトファクターが10を超える雑誌に2本の論文（Immunity 誌、Cell Host & Microbe 誌、ともに山崎晶教授）が掲載された。
7. 共同利用・共同研究拠点「多階層生体防御システム研究拠点」（平成22年度～平成27年度）として公募により48件の共同研究、3件の研究集会を採択し、実施した。
8. 特別経費（プロジェクト分）「新世代プロテオミクス技術によるシグナル伝達経路全貌解明」（平成22年度～平成27年度）により研究を推進した。
9. 研究所全体の交流の場として、平成25年5月8日に親睦会（コラボ・ステーションII）（233名参加）、8月5、6日に第16回生医研リトリート及び第7回理医連携リトリート（卓越した大学院拠点形成支援補助金）を開催し（170名参加）、3題の優秀口演賞、2題の優秀ポスター賞を選出した（ホテルセキア、熊本県南関町）。
10. 国内外から第一線の研究者を招聘して合計29回の生医研（多階層生体防御システム研究拠点）セミナーを開催し、活発な討論を行なった。

生体防御医学研究所では、昨年より「研究所概要」と「ホームページ」のスタイルを一新しました。国立大学の研究所においては、高品質で独自性の高い最新の基礎研究成果の情報を発信することはもちろん、社会貢献・国際貢献の活動を社会に対して目に見える形で示すことで、コミュニティにおける存在感を高めることが重要となってきました。これらの課題に適切に対応するため、今後とも生体防御医学研究所教員・学生・スタッフ一同、より一層の努力を行う所存です。何卒、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成26年4月1日